

真福寺蔵『法華論』は天平勝宝七年の訓点を伝えるか

中野直樹

鎌倉時代初期写、真福寺蔵『法華論』一卷には、本文の冒

頭から漢文を訓読するための訓点であるヲコト点・仮名点・句読点^①が加点されており、これらに従って全文のほとんどを訓読することができる(図1)。本書については中田祝夫

(一九五四、三三三頁)・築島裕(一九九六、四二三頁)が喜多院点資料として紹介している。今回は、先行研究を踏まえながら本書の訓点について考えてみたい。

* * *

本書のヲコト点は第二群点に属し、その中でも喜多院点にも近い。ただし、喜多院点図とは小異がある(図2)。

本書のヲコト点を筆者が帰納した点図(一部)と喜多院点図(一部。築島(一九八六)より引用)を示しておく(図3・図4)。

* * *



図1 本書のヲコト点
仮名点・句読点



図2 喜多院点図に未記載の
ヲコト点
「+」(「為」字左上)

次に、本書に見られる訓点の加成年次を知るために、本書の奥書(図5)を確認したい。奥書は以下の通り(字体はすべて通行のものに直した。■は虫損)。

点本云天平勝宝七年歲次^{乙未}年三月二十七日僧定觀師
治曆四年^{甲申}二月二十六日^{卯未}小田原山寺迎接房移点已畢假名比
丘經源^①

同十五日一交了

同年七月十日^{辰時}於同外移導華

元久二年四月二十一日於菩提山慈恩院移点畢

僧慶玄^②

① 經源(法相宗)大和興福寺の僧なり、經源は京都の人、興福寺に在りて久しく法相を学ふ、後山城久世の小田原寺に住して密法を修練し、某年寿八十四にて寂す(『日本仏家人名辞典』による)。經源が迎接房と号したことは中田氏が『後拾遺往生伝』から指摘している。

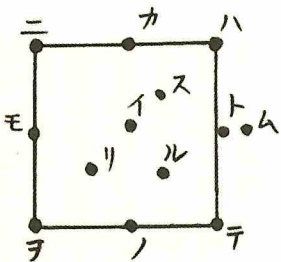


図3 本書 から帰納したヲコト点図

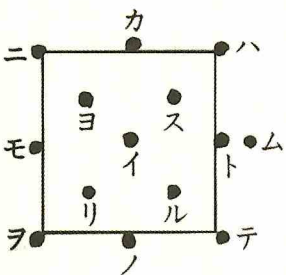


図4 喜多院点図

本文・訓点・奥書はいずれも同筆と考えられる。従って、天平勝宝七年(七五五)云々の奥書と治曆四年(二〇六八)の奥書は本奥書で、本書の書写・加点は元久二年(一一〇五)と判断する。

* * *

さて、ここで問題になるのは、本書はいつの時代の訓点を伝えているのかということである。注目されるのは冒頭の奥書で、これが本書の訓点にかかわる奥書であるとすれば、本書は八世紀中頃の訓点を伝えている可能性がある資料となる上に、これまで九世紀前半頃にヲコト点・仮名点加点が始まったとされる説に対して四、五十年早い例になる。

加點時期や訓点の新古を考える際には、奥書のほかに仮名字体や字音声点の体系をまず確認するのが一般的だが、本書の仮名字体は一部古体を交えながらも院政期から鎌倉初期に一般的な字体が主体であり、字音声点は加點例が乏しいため今回はヒントにならない。ほかに、訓法によって加點年次を考察することもできるが、ここでは紙幅が足りないので、本書のヲコト点と関連させて考えてみたい。

* * *

本書のヲコト点は先述のように喜多院点である。喜多院点は平安初期から存在し、その元は法相宗元興寺の明詮(七八九〜八六八)から発生したとされる(中田(一九五四、六四五〜六四九頁)・築島(一九八六、一二頁・一九九六、四〇五頁))。とすれば、本書のヲコト点に喜多院点が使われている以上は、明詮以前の訓点ではありえないことになるので、残念ながら冒頭の天平勝宝七年云々の奥書は、少なくともヲコト点には関係しないことになる。

本書のヲコト点には中央に強調の助詞として「イ」と読ませる点があったり(図3参照)、「者」字をヒトと読ませたりする訓が存する。これらは一般に古い読みとされ、本書には平安初期頃の古形が残っていることは確かである。しかし、これらは古形を残す資料には平安中期以降の加点においても見られるものであり、それが天平勝宝七年の訓点の残存例と判断すべき証拠にはならない。従って、本書は古形を含む治暦年間頃の喜多院点資料(鎌倉初期移点)と見るのが穏当かと思われる。但し、鎌倉初期に移点された際の訓点の改変は考える必要がある。

本書の奥書には定観・経源・慶玄の僧名が見える。三名のうち、定観は未勘だが残る二名は法相宗関係の僧と考えら

れる(本稿注①・②)。小田原山寺は浄瑠璃寺、菩提山慈恩院は正暦寺を指す。小田原寺は、久安六年(一一五〇)に興福寺一乗院の祈願所となっており(『望月仏教大辞典』、それ以前から法相宗との関りがあったものと思われる(築島一九九六、四二二三頁)も参照)。正暦寺は興福寺別当であった信円が再建に関わるなど、興福寺と関係があった(大原弘信・大原真弓(一九九二、三七頁))。これらからすると本書に法相宗所用の喜多院点が加点されていることは先行研究でも指摘されているとおり自然である。

【参考文献】
大原弘信・大原真弓「正暦寺一千年の歴史」『正暦寺一千年の歴史』(正暦寺、一九九二)
塚本善隆(編纂代表)『望月仏教大辞典』(世界聖典刊行協会、一九九四)
築島裕「平安時代訓点本論考(ヲコト点図 仮名字体表)」『汲古書院』一九八六
——『平安時代訓点本論考(研究篇)』(汲古書院、一九九六)
中田祝夫「吾点本の国語学的研究(総論篇)」(大日本雄弁会講談社、一九五四)
奈良国立文化財研究所編『西大寺観尊伝記集成』(大谷出版社、一九五六)
鷺尾順敬「増訂 日本仏家人名辞書」(東京美術、一九八六、増訂新装版)
【付記】
資料閲覧に際して真福寺当局より御高配を賜りました。記して感謝申し上げます。
(常葉大学短期大学部 専任講師)

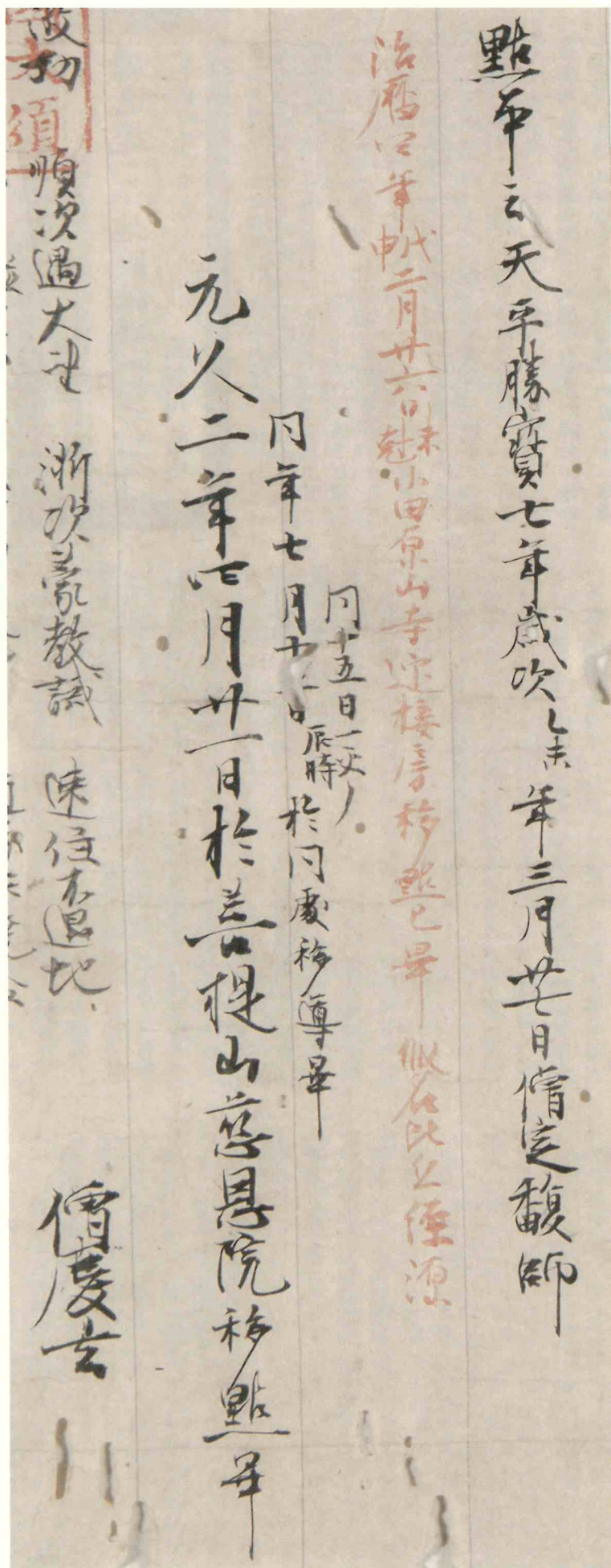


図5 本書奥書